

校番	010	○	ホームルーム活動	○	生徒会活動		学校行事	別紙様式2
----	-----	---	----------	---	-------	--	------	-------

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立尾道北高等学校	校長	藤本 秀穂	生徒指導主事	北風 慎哉
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『尾北's 生徒チューター制度』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・判断力・表現力」	2	「主体性」	3	「高い志・使命感」	1

取組のねらい

○生徒会活動の一環として、先輩から後輩に、「北高生」について指導・助言をする機会とする。  
 ○先輩と、さまざまなつながりを持つことで、学校生活に対してより高い意欲を持つ。  
 ○先生に言いにくい相談や質問を身近な先輩方から教えてもらう機会を設け、同級生だけでなく、多くの人とのつながりを持つ。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『生徒がつながる・生徒がつなぐ』
----------	-----------------------------

○前期（9月末）までに7回のチュータリングを実施した。

①校内巡回                      ②マッチング（アイスブレイク）  
 ③北高の紹介                    ④文化祭の紹介  
 ⑤日常生活の相談              ⑥体育祭の紹介  
 ⑦まとめ

各回で事前指導（2年生対象）を実施し、1年生との交流をもった。4月のLHRを活用し、担任による生徒面談と並行し、チュータリングを実施した。

令和3年2月に新2年生となる学年にチューターの募集をかけ、90名が立候補した。生徒同士のつながりを意識した活動として、各回の企画立案は生徒会執行部を中心に行い、事前指導を経て、チュータリングの時間の1時間はすべて2年生のチューター生徒が運営をした。

1年生は出席番号順に4～5名のグループを40グループ、それぞれに2年生チューターが2～3名ついた。iPadでスライドを活用したり、ゲーム形式でアイスブレイクをしたり、すべてのグループが統一して同じ内容を実施した。

『生徒がつながる・生徒がつなぐ』





取組の成果○と課題●

Qこの制度は有効に機能したと思うか。⇒肯定的回答91%（2年生）、98.4%（1年生）  
 Qチューターに立候補してどうだったか。⇒肯定的回答92.1%（2年生）  
 Qあなたはさまざまなつながりを持って、学校生活に対する意欲が向上したか⇒肯定的回答85.4%（2年生）、95.4%（1年生）  
 ○1年生の長欠生徒数の減少 ●新型コロナウイルス感染症の影響で制約の多い活動となった。